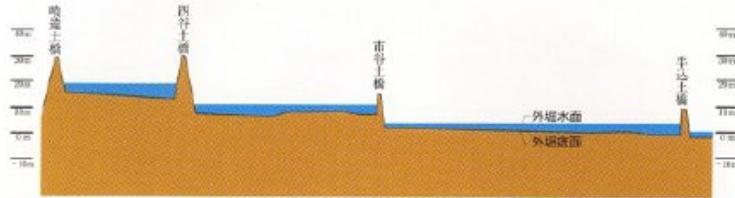


黄色：武家地
灰色：町地
桃色：寺社地

江戸の町割と地形

江戸城の文化財

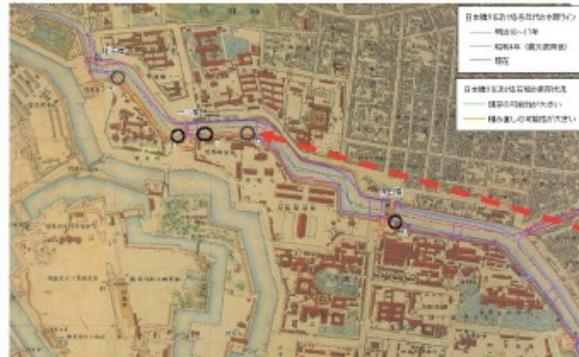
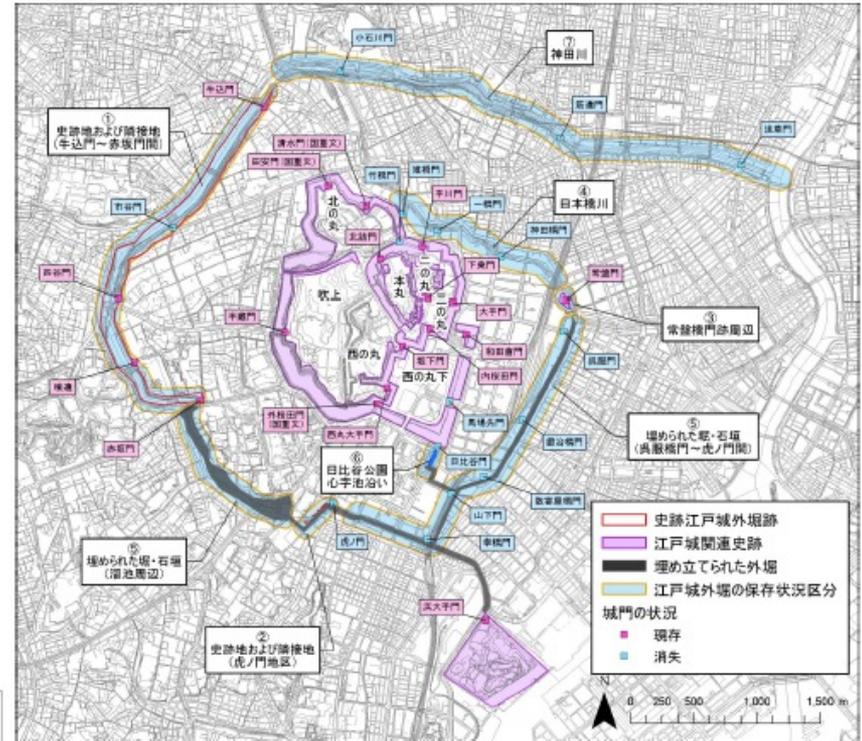
寛永13年（1636）築造の江戸城外堀の遺構



喰違が最上部で見附がダム構造となり、牛込門に向かって順次低くなるよう駆逐されている。



左上：赤坂門眺望場、右上：牛込門石垣、左下：史跡江戸城外堀跡、下：日本橋川に残る石垣と地点、右下：東京駅周辺で発見された外堀石垣

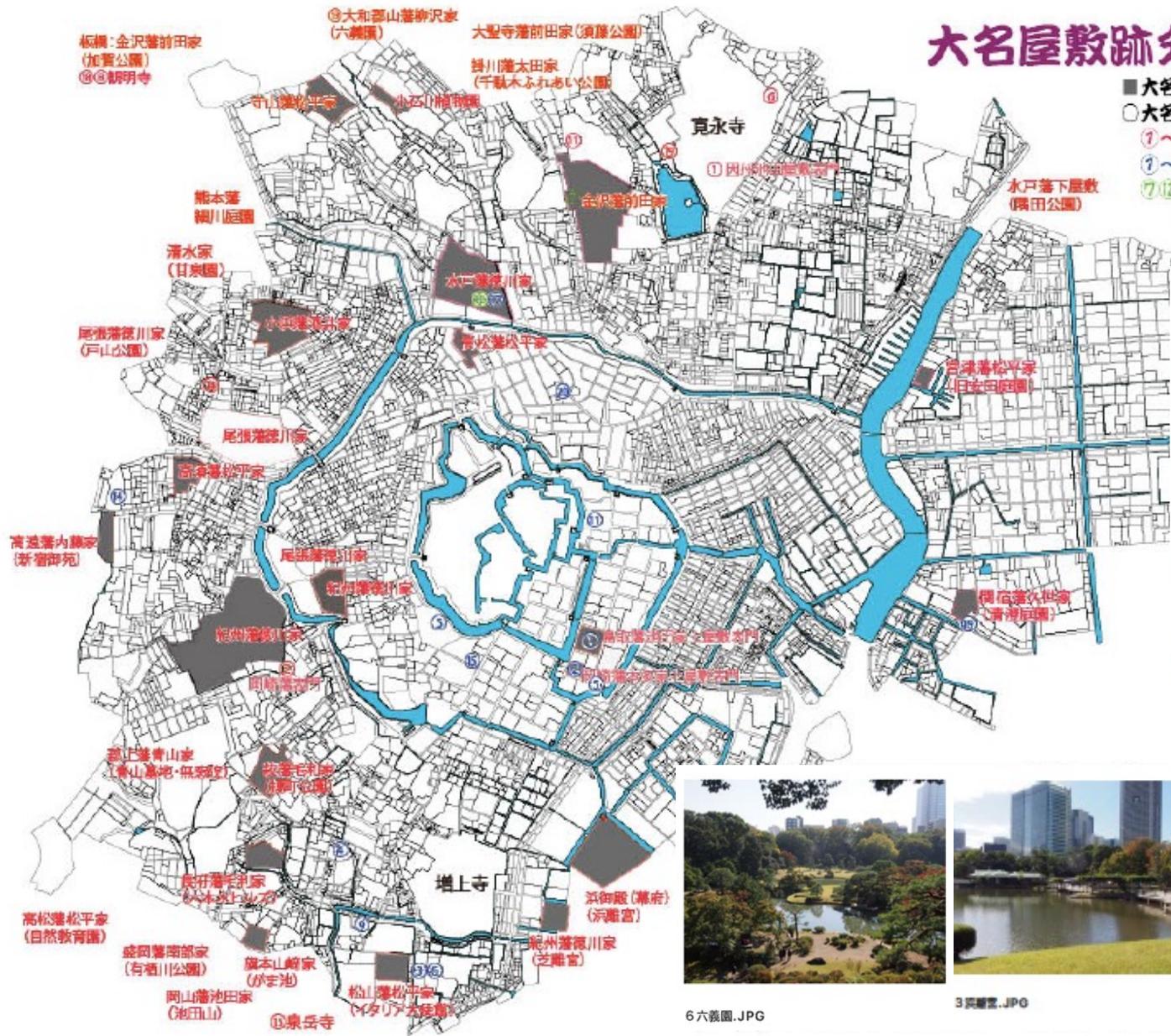


江戸城内郭の文化財



大名屋敷跡分布図

- 大名庭園跡
- 大名屋敷建造物
- ①～保存地 (移築場所)
- ②～移築元
- ⑦⑧その場で保存



2鳥取藩表門.JPG



赤坂大名屋敷門.JPG



6六蔵園.JPG

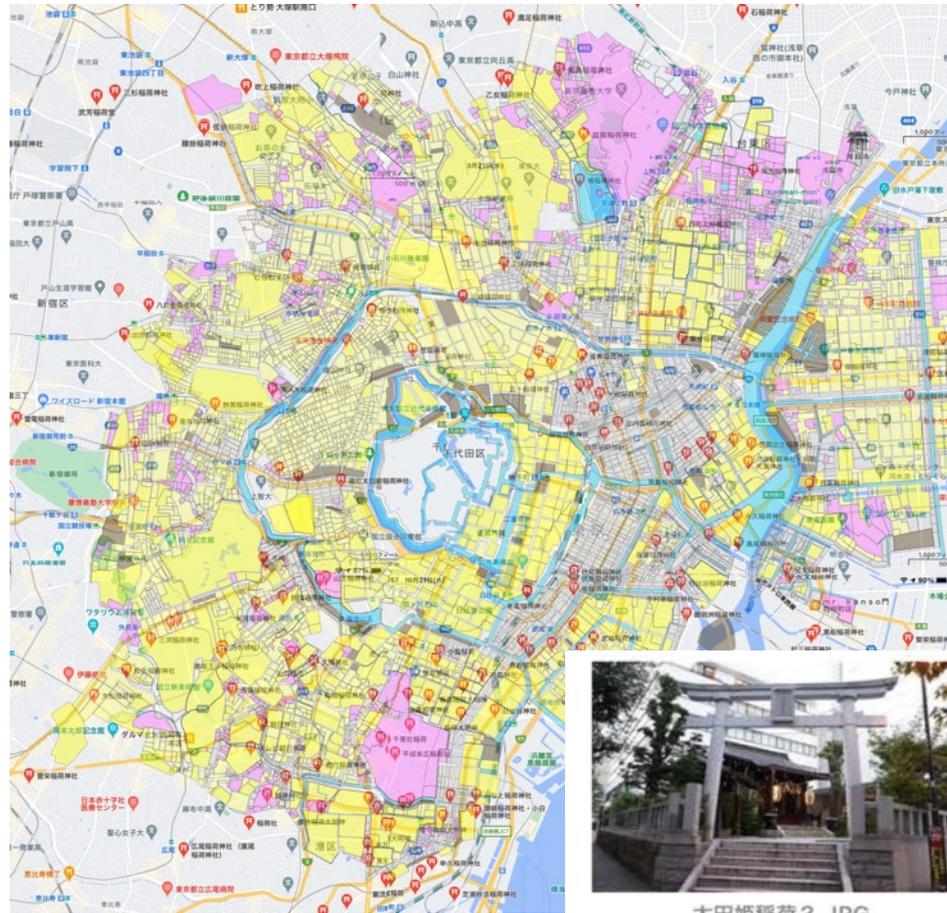
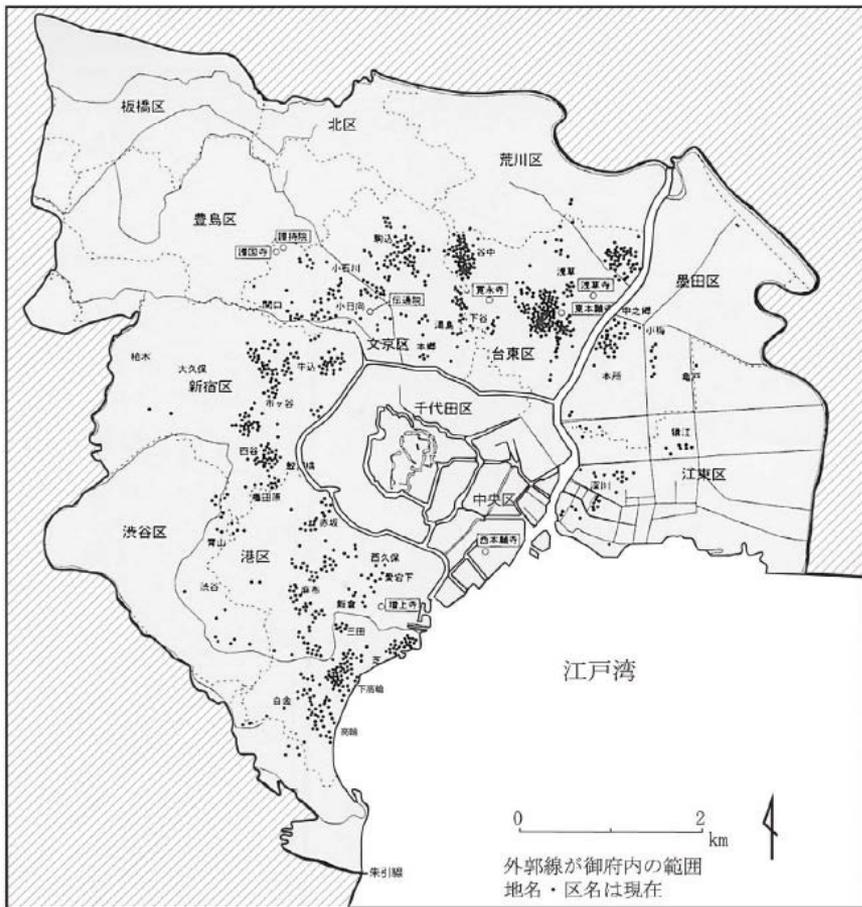


3三蔵園.JPG



7七蔵園.JPG

寺社地の文化財



太田姫稲荷 2.JPG

図 5 「御府内備考統編」に掲載された寺院分布 (日塔, 1998 を加筆・修正).



稲荷院 (表観) 雷瀬新候門.JPG



稲荷院 (裏観) 雷瀬新候門.JPG



稲上寺 1.JPG



稲上寺 稲川家稲庫.JPG



佐竹稲荷 2.JPG

江戸の名所



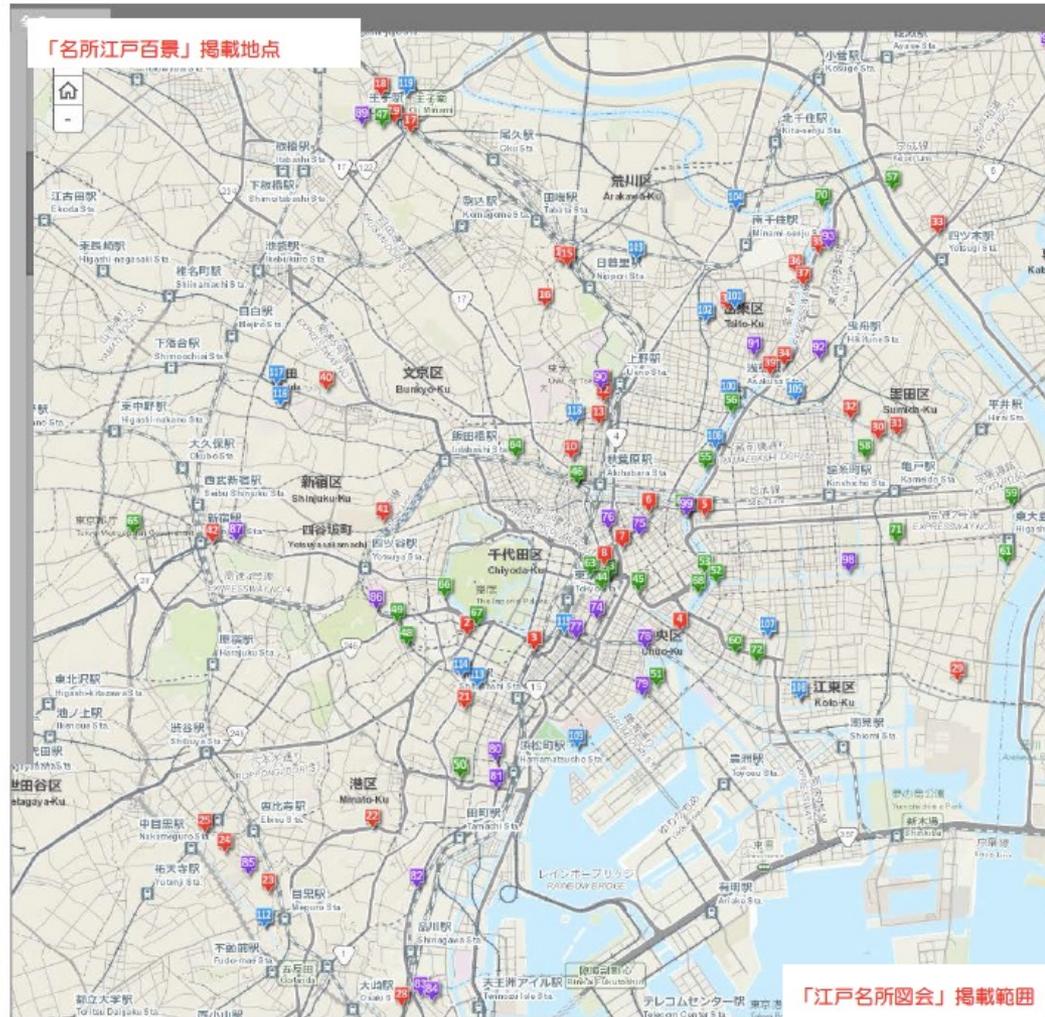
左から八つ見橋(45・夏)、虎の門外あふひ版(113・冬)



左から、水道橋競河台(48・夏)、霧かせき(2・春) 『名所江戸百景』

歌川廣重が描いた「名所江戸百景」はこうした都市の地形を巧みに描いた錦絵であり、全119点のうち坂など起伏を描いたものが19点、堀や河川、江戸湾、橋など水辺を描いたものが82点と、多くが自然環境を名勝地として描いている。

江戸の風景画には、都市の賑わいととも江戸城や富士山を望む地形や眺望を巧みに取り入れられていた。





「台所町より神田明神坂を望む」『新選東京名所図会』(明治31年)

奥の高台に建つ観が眺めた瓦葺風の建物が開花楼。

明治期の商店案内による千代田区内の商工業

種別	東京工業振興	東京商店案内	東京新業録	東京名物志
中食店 (博覧・販売)	牛乳粉製造会社(江崎町) 製菓製造士野村実業 (上野町)牛乳粉製造所 (志保町)製菓所(麹町区)	前田源代帳(麹町区)		
日本料理	料理屋権平山本堂支店 (本町区)	金巻 中会館(前田)三巻(麹町区) 長生楼(神保町)花巻 樓(丸の内区)金巻楼 長生楼(麹町区)三巻 長生楼(日比谷区)内 長生楼(麹町区)長生楼 長生楼 富士楼(麹町区)	金巻楼(麹町区)花巻楼 長生楼(本町区)長生楼 長生楼(麹町区)長生楼 長生楼(日比谷区)内 長生楼(麹町区)長生楼 長生楼 富士楼(麹町区)	長生楼(本町区)長生楼 長生楼(麹町区)長生楼 長生楼(日比谷区)内 長生楼(麹町区)長生楼 長生楼 富士楼(麹町区)
西洋料理	神保町洋館(麹町区)	三河屋(麹町)富士野(本 町区)神保町(丸の内区)	三河屋(麹町)多加羅亭(本 町区)神保町(丸の内区)富士 野(本町区)	
牛内屋	牛内屋(神保町)神保町	牛内屋(麹町)神保町 神保町(丸の内区)	牛内屋(麹町)神保町 神保町(丸の内区)	
鳥料理	鶴岡屋(新大塚)	高辻太人(麹町)鳥野(神田 区)	高辻太人(麹町)鳥野(神田 区)	
洋菓子	大倉洋菓子(麹町)アム ニール洋菓子(丸の内区) 藤田洋菓子(丸の内区) 藤田洋菓子(丸の内区) 藤田洋菓子(丸の内区)	藤田洋菓子(丸の内区) 藤田洋菓子(丸の内区) 藤田洋菓子(丸の内区)	藤田洋菓子(丸の内区) 藤田洋菓子(丸の内区) 藤田洋菓子(丸の内区)	
菓子	内務省製菓天保堂(丸 の内区)製菓天保堂(丸 の内区)	製菓天保堂(丸の内区)	製菓天保堂(丸の内区)	
書店		製菓天保堂(丸の内区)	製菓天保堂(丸の内区)	
文具店		製菓天保堂(丸の内区)	製菓天保堂(丸の内区)	
呉服・洋服	和服東京(麹町)和服精 八五郎(小田町)手紙 製菓(丸の内区)手紙 製菓(丸の内区)手紙 製菓(丸の内区)手紙			
書店	東京新聞社(丸の内区)	東京新聞社(丸の内区)	東京新聞社(丸の内区)	
寄売店	牧野洋行(麹町)丸木利 廣(麹町)	丸木利廣(麹町)	丸木利廣(麹町)	
旅館	大倉(麹町)丸木(丸の内区) 丸木(丸の内区)丸木(丸の内区) 丸木(丸の内区)丸木(丸の内区) 丸木(丸の内区)丸木(丸の内区)			
温泉	製菓天保堂(丸の内区)製菓 天保堂(丸の内区)製菓 天保堂(丸の内区)製菓 天保堂(丸の内区)製菓			
料亭	製菓天保堂(丸の内区)製菓 天保堂(丸の内区)製菓 天保堂(丸の内区)製菓 天保堂(丸の内区)製菓			

東京の名店

明治三十四(九〇)年刊行の東京名物志は、東京の名店が記録されています。千代田区内では多くの書店や出版社が掲載されており、東京堂や三友堂、富山房など現存する店もみられます。

料理屋では「富士見楼」や「金巻楼」、「開花楼」、北大路魯山人の美食倶楽部の後進として日枝神社境内で営んだ「星間茶寮」、西洋料理屋では帝国ホテルや、都内最初期の西洋料理店である「三河屋」のほか「富士見軒」、「多加羅亭」などが掲載されています。ほか、神田須田町の鳥料理屋「ぼたん」、外神田のうなぎ屋「神田川」といった現存する店舗や、明治八(一八七五)年に初めて天井を出したといわれる神田殿治町の「仲野」がみられます。

また、神田区では薬品店も多く、毒掃丸で有名な「山崎帝國堂」や「日新製薬房」一堀内商店などの店舗がありました。呉服店では現在の松屋百貨店の前身である「まつや呉服店」が見られます。



「東京商店案内」(明治中期) 千代田区

明治中期の東京府内の著名な商店が外観の風景とともに紹介されている。千代田区内では、榎本武揚が創設した板田町の「北成社」を引き継いだ前田源代帳の牛乳販売所が掲載されている。店先の看板をみると、牛乳のほかはバター、ゼリー、石けんなどを製造販売していることがわかる。



牛内商の天福楼(三番町)は、明治4(1871)年に開業したすき焼きの名店で、増田神社前の丸九段三丁目に営んでいた。

IV章 名所を巡る旅

東京の新名所をめぐる観光

江戸時代には平和の世が訪れ、五街道を中心に全国に街道が整備されると、旅は快適・安全になり、人々のあいたに寺社参詣などの目的で旅が盛んとなっていました。特に江戸は参勤交代で多くの大名の家臣が訪れ、名所巡りが活発となりました。明治維新を経て全国に鉄道が整備されると、旅行が一般的になっていきました。

明治時代以降の東京の名所は、「名所江戸百景」など江戸期以来の水辺や坂など自然地形を引き継ぎますが、次第に新名所として役所や学校などの洋風建築、鉄道や橋といった文明開化を象徴するものが登場します。明治中期以降、新名所が増加することも旧来の名所が減少していき、特に我が国初の英租界に指定された皇居周辺や上野、浅草、芝などの公園、招魂社や常盤明台のある丸段などを対象とした絵画や写真が多く見受けられます。さらに戦前の昭和初期になると、眺望や自然環境に目を向けられ、「四季の遊覧」を目的とする観光案内も現れました。

近代の名所案内書や絵がはがきには、東京の観光地が掲載されています。こうした新名所の建築物は、戦前や昭和四十年代の高度経済成長期の東京名所バス観光案内からも知ることができます。



「最新東京名所写真帖」(明治42年)

「最新東京名所百景」(明治末年)

- 49-①和田倉門 49-②二重橋 49-③印刷局 49-④警視庁 49-⑤日比谷公園音楽堂 49-⑥大塚院 49-⑦国会議事堂 49-⑧帝国劇場 49-⑨新橋 49-⑩増田神社 49-⑪丸の内線 49-⑫高松橋 49-⑬御茶ノ水橋

- 50-⑭日比谷図書館



「大東京百景」(昭和7年)

- 51-①東京駅 51-②和田倉門より橋場のビル群 51-③国会議事堂 51-④日比谷公会堂

都市の課題等に関わる文化財

百万都市となった江戸は、災害に対する対応、衛生面、差別など多くの課題を抱えていた。こうした社会的課題に関する文化遺産を辿ることで、多様な封建社会を知ることができる。

① 災害に関する文化財

- 火災・風水害・地震・疫病にさらされるなかで人々が生活していた。
- ・石造明暦大火横死者供養塔（回向院）、明和の大火支社供養塔（港区光明寺）、文政12年大火横死者追善之塔（伝通院）
 - ・波除碑（州崎神社）、日本堤跡・山谷堀跡（台東区）
 - ・浅間山噴火横死者供養塔（江戸川区善養寺）、流民叢塚碑（飢饉碑）
 - ・品川区法善寺）
 - ・神田下水、旧三河島汚水処理場（疫病改善）

② 刑罰

- ・鈴ヶ森処刑場（品川区）、小塚原処刑場（首切地蔵、解剖事始）、小伝馬町牢屋敷（中央区）、石川島人足寄場（中央区）

③ 女性・子供

- ・吉原（大門跡、見返りの松）、荒川区浄閑寺（新吉原壮総霊碑）
- ・迷子しらせ石（一石橋・浅草寺・根津神社）



上: 神田下水
中: 小塚原処刑場(首切地蔵)
左下: 浅草寺迷子しらせ石
右下: 一石橋迷子しらせ石

近代の文化財分布

・震災復興建造物

日比谷公会堂



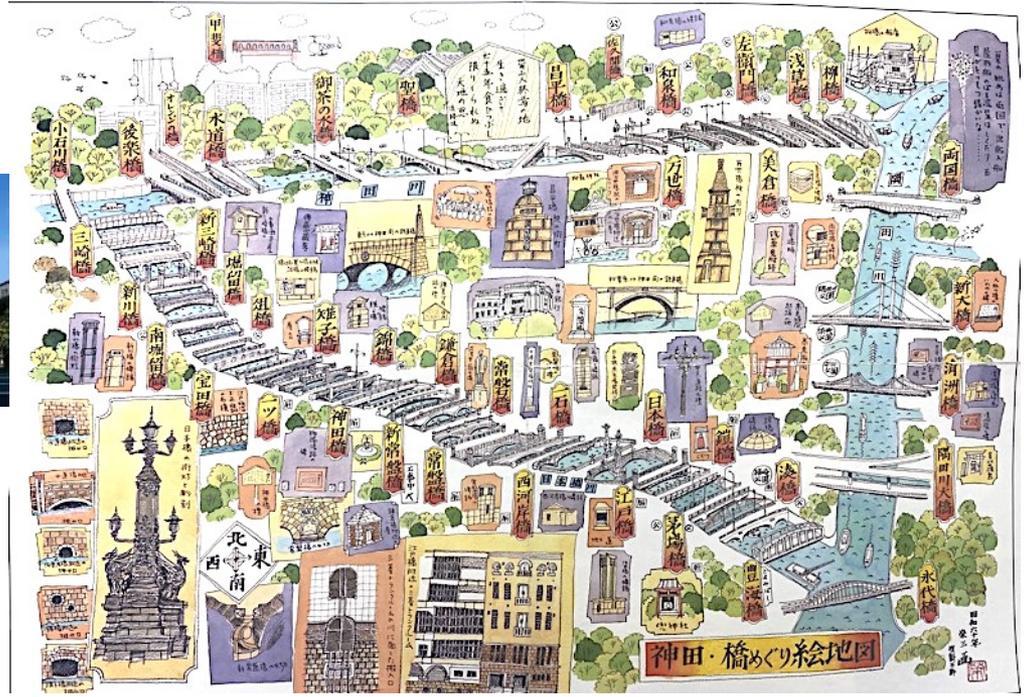
文部科学省旧庁舎



清洲橋



永代橋



C7 御茶ノ水橋



C8 聖橋



D13 新常盤橋



D14 常盤橋



C9 昌平橋



C12 万世橋



D15 常盤橋



H1 紅梅河岸高架橋

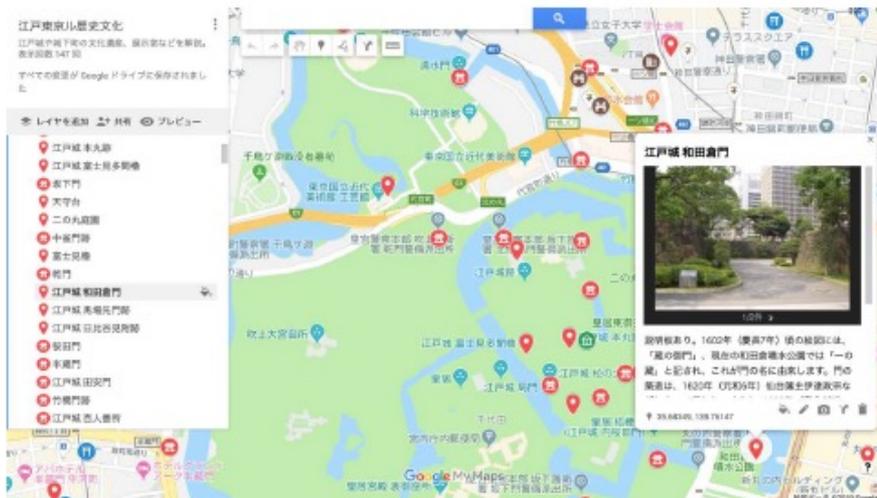


文化財の情報発信①

・HP など多様な媒体で歴史文化遺産の情報を発信

江戸城と江戸御府内（千代田・中央・港・新宿・文京・台東区と墨田・江東区一部）の文化財等歴史文化遺産の実態や分布状況を調査した。これらの価値を把握し、保存活用地域計画などを考える前提とするとともに、これらの情報提供を検討する。

現代地図と江戸の古地図を利用した江戸復元図を合わせて、東京に残る歴史文化遺産の情報地図をデジタルで作成し、東京に住む市民や訪れる観光客等に GIS（現在 googlemap 上に地点表示している）で提供する。街歩きに活用のほかネットによる地域史を知るための情報ツールとしての利用も想定できる。また、文化財解説板やガイダンス施設などで活用することで文化財や観光行政、博物館の利用にも有効となる。



「江戸明治東京重ね地図」より（小島とよみ氏、株式会社ネットアドバンス作成）

現代地図と江戸古地図を連動して、歴史文化遺産の位置情報を示し、解説文と画像を紹介する。

- ・江戸時代の江戸城・大名屋敷・寺社（船荷）・町・橋に関する歴史文化遺産分布
- ・地名・町名・地形（坂）など地域に関する情報
- ・江戸の老舗等、現在も残る店の紹介
- ・将来は明治期から昭和初期までの東京に残る歴史文化遺産と各時代の古地図との連動を図る



文化財の情報発信②

江戸城本丸御殿外観・内部や城門周辺の風景をVR等で開発した事例を示す。

■江戸城城門からみた江戸の風景（フジTV・VR江戸城門）

■江戸城本丸御殿のVR（NHK）

江戸城天守のほか本丸御殿内部や城門からみた江戸の街並みなどバーチャルリアリティによる活既に試みられている。

VR江戸城門

▶ 周囲をぐるっと囲むように江戸幕末再現CGを配置、同アングルの現在の写真と見比べることにより、江戸幕末から現在まで150年の経過を感じることが出来ます。



フジTVによる城門AR（TTV江戸城門）



【参考3】他の城跡での歴史を知る活動（公開・展示）

全国の近世城跡では、歴史的建造物（18-21頁に復元事例を示した）の復元だけでなく、その歴史を伝えるための様々な取組がなされている。その事例の一部を示す。

■ 白河小峰城の整備・活用

小峰城跡では東日本大震災の修理事業に伴い御殿や城門をARで復元し、その場にあるような工夫をしており、白川集古館の改築によって城門の復元を行い、小峰城の歴史を紹介する施設を設置した。

